

令和7年度 シラバス

愛媛県宇和島高等学校津島分校

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	2	学年	2年	類型	カレッジコース
教科書	東京書籍 日本史探究			副教材	東京書籍 要点マスター 日本史探究 整理と演習				

学期	月	単元名	指導項目、内容	重視する評価の観点			学習のねらい・学習の目標・評価の観点
				知	思	主	
1 学期	4						学習のねらい 人類が日本列島で生活を営み始めた時代から平安時代までを扱い、先史・古代がどのような時代であったかを東アジア世界の動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。 平安時代末から戦国時代までを扱い、中世がどのような時代であったかを東アジアやユーラシアの動向と関連付けて考察し、総合的に捉えて理解できるようにする。 学習の目標 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。 評価の観点 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想して表現している。 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、生徒自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
		第1編 先史・古代の日本と東アジア	第1章 先史社会の生活と文化 1 旧石器時代の日本		◎	○	
			2 縄文文化	◎		○	
	5		〃	◎		○	
			3 弥生文化と小国家の形成	◎	◎		
			〃 中間考査	◎	◎		
		第2章 歴史資料と先史・古代の展望	1 先史古代の歴史を組み立てる資料の特徴 2 東アジアとの交流のなかでうかがえる歴史 3 本島が語る律令国家の姿		○	◎	
	6	第3章 古代社会の形成と展開 1 節 律令国家の形成と古代文化の展開	1 大和王権と古墳文化 2 飛鳥の朝廷と文化 3 律令国家の形成と白鳳文化 4 平城京と天平文化	○	◎		
		2 節 摂関政治と貴族文化	1 平安遷都と唐風文化		○	◎	
			2 貴族社会と摂関政治 3 国風文化	○		◎	
			〃 期末考査	◎	◎		
	7	第2編 中世の日本と世界	第1章 中世社会の成立 1 朝廷政治の変容 2 武士の政治進出	◎	○		
			第2章 歴史資料と中世の展望 1 武家権力による日本社会の変容 2 厳しい自然環境での人々の生存戦略 3 中世日本の国際交流	◎	◎		
2 学期	8						我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。多面的・多角的な考察や深い理解を通して、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。 評価の観点 知識・技能 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解している。 思考・判断・表現 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想して表現している。 主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、生徒自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
	9	第3章 中世社会の展望 1 節 武家政権の成立と朝廷	1 鎌倉幕府の誕生	○	◎		
			〃	◎	◎		
			〃	◎		○	
			2 執権による政治	○	◎		
	10		〃 中間考査	◎	◎		
			3 モンゴル襲来と社会の変容	◎	○		
			〃				
			4 鎌倉の仏教と文化	◎		○	
			〃	◎	◎		
	11		〃		◎	○	
		2 節 武家支配の広がりと国際交流 1 南北朝の動乱と室町幕府の成立			○	◎	
			〃	○	◎		
	12		期末考査	◎	◎		
			2 倭寇と東アジア国際交流	○	◎		
			〃		○	◎	
3 学期	1		3 室町時代の社会と経済活動	◎	○		よりよい社会の実現を視野に、生徒自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
			〃		◎	○	
			〃	◎		○	
	2		4 自立する戦国大名	○	◎		備考
			〃	◎	◎		
			〃	◎		○	
			5 室町文化	○	◎		
	3		学年末考査	◎	◎		
			〃	◎		○	

※評価の観点 知：知識・技能 思：思考・判断・表現 主：主体的に学習に取り組む態度

◆学習方法のポイント

【日本史探究の勉強方法の特色】

- 日本史探究では、日本の文化や生活がどのように成立・発展し、現在の日本を形成してきたのかを学びます
- 予習・復習を必ずするようにしましょう。特に教科書をよく読むようにしましょう。
- 興味を持って、授業に取り組むようにしましょう。
- 日本の文化や社会の発展に興味を持ち、理解するように努力しましょう。

【授業】

- 授業では以下のことに注意をしてください。
 - 1 教科書を何度も読み、興味や疑問を持ちましょう。
 - 2 基本的用語については、調べて、その意味を確認しましょう。
 - 3 ノートをきれいに整理し、理解しやすいように努力しましょう。

【家庭学習】

- 教科書を繰り返し読みましょう。
- 理解できない用語は、辞書等で調べてみましょう。
- ノートは自分で工夫して、理解しやすいように工夫しましょう。
- 授業等で感じた疑問は、必ず調べたり、質問して理解するようにしましょう。

【定期考査】

- 教科書・ノートを繰り返し読みましょう。
- 重要な語句は、覚えるように努力しましょう。

◆評価の方法、規準

評価の方法	定期考査、授業への出席状況および学習意欲、課題提出とその内容、ノートの整理状況を ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から 総合的に評価します。	
評価の規準	1 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	2 学 期	中間考査、期末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	3 学 期	学年末考査(主に①と②の観点から評価します。) 出席状況および学習意欲(主に③の観点から評価します。) ノートの整理状況(主に③の観点から評価します。) 課題提出状況等(主に②、③の観点から評価します。)
	学 年	1学期の成績、2学期の成績、3学期の成績の平均